



[本校] 〒950-2292 新潟市西区みずき野3-1-1
tel. 025-239-3111 fax. 025-239-3690
[新潟中央キャンパス] 〒951-8068 新潟市中央区上大川前通7-1169
tel. 025-227-7111 fax. 025-227-7117
http://www.nuis.ac.jp somu@nuis.ac.jp



平成29年度 新入生 おめでとう

桜の花芽はころる青空の下、平成29年度入学式が4月4日、本学体育館で行われ、新入生332人（情報文化学部200人、国際学部132人）は気持ちを引き締めて、みずき野キャンパスでの学生生活をスタートさせました。

教養ある人格形成
学ぶ楽しさ知ろう

希望を胸に少し緊張気味の新入生に、平山学長は「キャンパスで友情を育み、大学生活を精一杯謳歌して、青春時代を送ってください。私たちは、皆さんが自立という未来に向かって基礎を築くお手伝いをします。教養ある人格・人間形成に励めるよう最大限の支援をします。でも主役は皆さんです。入学後、早期に勉強する生活習慣をつけてください。学ぶ楽しさを知ってください」と式辞を述べました。

リーディング映像で紹介。新潟県知事と新潟市長の祝辞が披露され、在学生代表の国際文化学科・天野健太郎さんが「多くの人と交流し積極的に友人をつくってください。そして知識を深めてほしい。クラブ、サークル活動の先輩、後輩のつながりは心強い力になります。自主性を高め、自覚を持ってほしい」と先輩として歓迎しました。

新入生代表の国際文化学科・小野達矢さんが「自己の無知を自覚し、積極的に調べ、先生方に学び、友人と切磋琢磨して成長していく有意義な4年間になりたい」と入学の抱負を述べました。新入生は、在学生のリードで大学校歌「空がある 風がある 光がある」を初めて歌い、さわやかな明るい歌詞をかみしめていました。



CONTENTS

2~5面

平成29年度入学式特集
学長式辞
新入生代表・私の抱負
在学生代表・歓迎の言葉
両学部長のメッセージ

6・7面

COC+国際交流事業
駐日韓国大使が来学 講演
青少年のための科学の祭典 出展
農産物を活用するコンテスト
アイデア部門で入賞
国際学部 安藤潤准教授
家計経済を分析、出版

オープンキャンパス案内

8・9面

派遣留学・海外夏期セミナー帰国報告

10・11面

就活スタート 学生・企業交流会
日本人間工学会で表彰
平成28年度主な就職先一覧

教員の活動

12~16面

平成28年度卒業式特集
学長式辞・理事長祝辞・卒業生答辞
JABEE認定33人に修了証書
卒業にあたって
特別表彰 式典スナップ



NUISホームページ
https://www.nuis.ac.jp
(スマートフォン対応)



Facebookページ
https://www.facebook.com/nuis.face



LINE@
@nuis-line3111

LINEの「友だち追加」から「ID検索」で登録

入学式

式辞



新潟国際情報大学
学長 平山 征夫

く質問し1日も早く大学生活のリズムを築いてください。

本学から巣立っていった皆さんの先輩は約5800名ですが、その多くは地元で活躍しています。卒業生の努力もあってこの23年の比較的短い歴史にも関わらず、幸い地域から信頼される存在として評価されるようになり

この春もみずき野に332名の新入生を迎え入学式を挙行できますことを心から喜んでおります。

まず新入生皆さんに「入学おめでとう」と申し上げたい。本学役員、教職員を代表して皆さんの入学を心から歓迎申し上げます。ご父母の皆さまにもお祝い申し上げます。

本学では先月20回目の卒業生を送り出し、本日24回目の新入生を迎えました。平成6年の開学以来、毎春大学としての歴史を刻み伝統を育んできました。これからはその役割を皆さんが引き継いでいくわけです。どうかこのキャンパスで大学生活を精一杯謳歌し、有意義な青春時代を送ってください。

皆さんはこれからの大学生活に期待と不安を抱いておられることでしょう。私ども教職員は皆さんがスムーズに大学生活に慣れるよう全力でサポートしますので、安心してください。分からないことは遠慮な

本学は国際化・情報化時代に地域で必要な人材育成を主たる目的に1994年

「地域になくはならない大学」を目指そうという目標も掲げました。私たちは大学で皆さんが自立という未来に向かってその基礎を築いていくお手伝いをしたいと願っています。どうか皆さんはこの目標に向かって明日から努力してください。

若者、それから地域の未来に対してです。この考えから「地域になくはならない大学」を目指そうという目標も掲げました。私たちは大学で皆さんが自立という未来に向かってその基礎を築いていくお手伝いをしたいと願っています。どうか皆さんはこの目標に向かって明日から努力してください。

豊かな人格形成へ

に設立されました。4年前の創立20周年を期に国際学部を新設、2学部制として新たなスタートをしましたが、さらに時代や地域ニーズに応えた人材育成を充実すべく情報文化学部の「経営情報学部」への改組（経営学科の新設）を来年度以降目指すこととしています。また、このみずき野の恵まれた自然環境の中、皆さんが充実したキャンパスライフを送れるよう、近年学生会館の建設など学園環境の整備にも努めてきました。このキャンパスで、友情を育みながら大いに青春を謳歌してください。ここが皆さんの未来への飛翔のスタートの地となりますことを願っております。

本年は情報文化学部200名、国際学部132名、両学部合計で332名の新入生を迎えました。教職員一同建学の理念であります「国際化、情報化の社会の中で役に立ち、能力があり、意欲があり、人間性豊かな人物を育成する」という目的に向かって、皆さんが日夜勉学に勤しみ、人格・人間形成に励むことができるよう最大限支援します。でも主役はあくまで皆さんです。皆さんが将来の夢の実現と自立に向けて学び、考える力を身につけてください。

皆さんは本学の建学の精神等に共鳴し国際文化、語学、情報システム、経営情報といった専門分野に興味を抱いて、高等教育を本学で学ぶことを選択したわけです。私たちは皆さんの希望が達成できるよう全力で応援します。皆さんも自分の目標に向かって日夜勉学に励んでください。そのためにも、まず入学後早期に勉強する習慣を身につけてください。大学は高校までのように決められた授業スケジュールに従って学ぶのではなく、自らが何を学ぶかを決め、カリキュラムを選んで学ぶのです。しかも選んだ授業に出るかどうかは自由です。大学に入り急に自由な生活に変わって、戸惑ってしまうようです。重要なことは、入学後最初の半年間に自由の中にも規律のある、そして自ら学ぶという生活習慣を身につけることです。それができないと授業についてゆけず、欠席しがちになります。最初の半年間で学ぶ習慣をきちんと身につけ、学ぶことの楽しさを知って欲しいのです。大学生となり「生涯学び続ける人生」のスタートを切ってほしいのです。

大学では高い専門性と同時に極力幅広い分野の学びも行い、様々な問題に関心を持ち、深い思考力を身につけるようにしてください。大学は「リベラル・アーツ」教育教育」といつてこうした学びを重要視しています。「AI時代」では長い生涯何が起るかわかりません。迷った時、困難に遭遇した時、どう生きるか判断するのに多くの「知識の引き出し」を持つことが重要な時代です。その知識の引き出しを動員した思考の繰り返し判断力を高め、相手の意見をも受け入れる包容力も身につけさせてくれます。包容力のある人間性豊かな人格を形成していくことが信頼される人間を作り上げてゆくからです。

それには専門分野以外、例えば哲学、文学、美術、音楽など思考と感性を豊かにしてくれる分野にも大いに興味を持ってください。クラブ活動や、先生や友人との人間関係からも多くのことを得るでしょう。積極的に部活や友人づくりに取り組んでください。そんな学生生活を本学で送って欲しいのです。この大学で自分の学びたいことと自分の適正を見定めながら自身の将来の生きる道、生き方を見つけてください。

明日からの大学生活は高校生時代とは異なり、限りなく自由です。授業に出ようが、アルバイトに行こうが、家で寝ていようが自由です。でも自由であるからといって学生の本分である学ぶことを忘れたら学生で

はありません。自己管理をしつかり行い、メリハリのある学生生活を送ってください。それには目標を定めて取り組むのが良いでしょう。JABEEなどの資格取得やTOEFLの点数を目指したり、地域貢献ボランティアに取り組んだり、4年間の目標計画を作って管理していく目的意識が望まれます。毎日のトレーニングが積み重なってTOEFLの点数が高まっていくように日々の研鑽こそ大切です。短時間でもよいです。から毎日の勉学を習慣にしてください。古代ギリシャの哲学者アリストテレスは次のように言っています。この言葉を噛みしめてください。

一羽のツバメが来ても夏にはならないし、一日で夏になることもない
このように一日もしくは短い時間で、人は幸福にも幸運にもなりはしない

私の抱負



新入生代表
国際文化学科1年
小野 達矢

まだ雪の残る越後の山々も春の日差しを受けて輝く季節になりました。
今日は私たち新入生のためにこのような素晴らしい入学式を挙げていただき、誠にありがとうございます。また、数々の激励のお言葉をいただき、心から御礼申し上げます。

生涯学び続けよう

毎日の積み重ねで人は幸福になるのだと言っているのです。

もう一つ、あまり入学式にはふさわしくないのですが、毎年お願いしていることがあります。学生諸君だけではなくご父母の方々も一緒に聴いてください。それはこうして希望に胸を膨らませて入学しながら、途中で休退学する学生がいるということです。経済的理由もありますが、勉学意欲の喪失、実質は授業に関心が持てない、ついていけないと言う理由が多く、とても残念なことです。しかも、もっと早く相談してくれば何とか休退学に至らずに済んだものというケースもあります。私たちは極力

こうした事態に至らないよう全力で皆さんの相談に乗って問題解決に努めたいと思っています。そのためゼミの先生を中心に履修状況を見ながら面談等を行いますので、悩みを抱え込まずに相談してください。多くは勉学習慣が身につかないまま夏休みが来て、秋に入ると授業についていけなくなり、登校しなくなるというケースです。そんな状態になりかけましたら、すぐにゼミの先生か学務課の担当者などに相談してください。

ご父母の方々、家庭でお子さんと時折大学生活について話し合ってください。ゼミなど欠席が続いた場合には大学側から連絡

げます。

世界情勢は目まぐるしく変化しており、連日のように様々なニュースが報道されています。しかし、メディアによって報道されている内容をただ受動的に享受するだけ

向上心を忘れず 知的探究続ける

では、そのニュースのより深い、本質的な部分を知ることができないと考えます。大学では、このようなニュースに対して、積極的に調べ、話し合い、そして自分なりの答えを導き出したいと思えます。そのため

に、見識豊かな先生方から学び、同じ志を持つ友人と切磋琢磨しながら成長していく有意義な4年間にしたいです。

また、勉強だけでなくクラブやサークルなどの課外活動を通して、様々な人と関わることで自分の感性や考え方を広く豊かなものにしていきたいと思っています。

私たちは無知です。世の中の全てを知るためには、世界はあまりにも広すぎて、私たちはあまりにも若すぎます。だからこそ、かつてソクラテスがそうしたように己の無知を自覚し、常に知的探究心を持って学問に向かい、何事にも関心を持ち、向上心を忘れないような大学生活を送ることをお誓いし、新入生を代表しての抱負とさせていただきます。

させていただきます。不幸にして途中で家庭事情の変化で勉学の継続が難しくなった場合にも相談ください。勉学意欲を持った学生が経済的事情だけで辞めなければならなくなることを何とか避けたいと、父母会の御尽力で一定の条件を満たすケースについては支援する本学独自の制度を数年前設置しています。どんな事態になっても勉学意欲は持つていてください。一緒に悩み相談に乗ってくれる人がいることを忘れないでください。

皆さんのこれからの大学生活がこの豊かな自然の中で楽しく意義深いものとなりますことを切望しています。世界をみれば所得格差拡大による中間所得層の崩壊などで、大学で学ぶことが困難な若者が増えていきます。中には紛争の中で生命の安全すら脅かされている若者もいます。どうか高等教育を受けられないこうした若者に思いをいたしながら、大学で学ぶことが出来る喜びを噛みしめ勉学に励んでください。最後に入学の歓迎のメールとして私の好きな米国の作家、ウィリアム・アーサー・ウォードの言葉を送ります。

悲観的な人間は風が出てきたと嘆き
楽観的な人間は風が止むのを待つ
しかし現実的な人間は帆を調整するのだ

本学では以前から挨拶運動をしています。式の後から早速、大学内ではお互い元気よく「おはようございます」「こんにちは」と挨拶しましょう。挨拶から信頼しあう人間関係が生まれます。今日から皆さんは同じ大学の仲間として挨拶を交わしましょう。颯爽とした皆さんの大学生活ぶりを楽しみにし、学長としての歓迎の式辞いたします。



在学生代表
国際文化学科3年
天野 健太郎

平成29年度新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。また、ご臨席いただいたご父母の皆さまにも、心よりお祝いを申し上げます。

新入生の皆さんは本日からこの新潟国際情報大学の学生になりました。これから4年間の大学生活を送るにあたっていろいろと考えることがあると思います。新たな環境への期待や単位取得などに対する不安など、いろいろ思うことがあると思います。

ここで私は大学生活を楽しむ、そして自分の持つ力を最大限に生かすために3つの秘訣をお伝えします。1つ目は多くの人と交流関係を築いてもらいたいということです。新たな環境ですぐに友人関係を築くことは少し難しいことかとは思いますが、これからの4年間の大学生活を円滑に送るためにはとても重要になります。「一人一人の学生同士が手を取り合い、未来に向かい進んでいく大学にしたい」これは私自身がこの大学内での学友会長の選挙で公約に掲げたものです。そして私は学生投票により学友会長に選出されました。学友会長というのは生徒会長のようなものです。一人でできずに悩むようなことがあってもあな

るはず。地元の友達や同じ高校だった友達と仲良くするのも大切なことですが、積極的に新しい友達を作ってみてください。

2つ目は、時間の使い方です。これは主にアルバイトのことなどについてです。大学生になれば毎日朝から夕方まで大学で講義を受けている、といった今までの高校などのような決められたスケジュールではなく、自分で決めたスケジュールで動くようになり、今までよりも時間が多くなり自由に行動できると思います。こういった時間にアルバイトに励めばお金は稼げ、ちょっとした社会勉強にはなるとは思いますが、私としては、こういった自由に行動できる時間にこそ友人との交友関係や自らの知識を深める時間にしてほしいと思います。ク

自覚と自主性、人と関わる

ラブ活動に参加してみるのもよいでしょう。本学には40以上のクラブやサークルがあります。興味あるサークルがあれば自らサークルを立ち上げることもできます。クラブやサークルでの先輩や後輩とのつながりはとても心強い力となります。まずは何かサークルに入ってみるとよいでしょう。

そして最後の3つ目は、自主性を高め物事に対する姿勢を変化させてほしいということです。簡潔にいうと自分で決める自覚を持つてほしいということです。先ほどの時間のところでも触れましたが、大学生は自分で決めたスケジュールで動きます。決断すべき時に決断できないと、その後悔が自分へのしかかってきます。そうならないためにも、ただ時間に任せるのではなく自

祝電

順不同

日本私立大学協会 会長	大沼 淳様
新潟県 知事	米山 隆一様
新潟市 市長	篠田 昭様
セコム上信越株式会社 代表取締役会長	野沢 慎吾様
株式会社日本ドリコム 代表取締役	山城 由紀雄様
株式会社リクルート北関東マーケティング 代表取締役社長	中島 淳二様

覚を持つて学生生活を送ってもらいたいと願っています。

最後になりますが皆さんの中には、この大学を第1目標に掲げた人ばかりではないかも知れません。国・公立大を目指した人も多いのではないのでしょうか。

しかし大切なことは、これからの4年間に何をするかです。自分の成長は大学間の差ではありません。この大学には素晴らしい先生と仲間がいます。私は皆さんにこの大学を好きになってもらいたいです。4年間という年月の中で楽しいこともありますが困難に立ち向かわなければいけないこともあると思います。そんな時も胸を張り、新潟国際情報大学が好きだといえる学生になってもらいたいと思います。これからの4年間の学生生活が充実したものになりますよう、これを願い、歓迎の言葉とさせていただきます。

湧源

編集後記に代えて

入試・広報委員長 安藤 潤

30年近く前、確かに自分も入学式に出た。桜舞い散る中、巨大な体育館に押し込まれ、うる覚えの校歌を歌ったように記憶している。結局その後大学院まで含めて12年間お世話になったが、今もって、入学式からGW前までの約1カ月間のあの光景は異様としか思えない。

一部学部を除いて男子比率が極めて高い大学にもかかわらず、その1カ月間だけは部や同好会オリジナルのスタジアムジャンパーや鮮やかな蛍光色のウィンドブレーカーをまとった他大学の「先輩」女子学生であふれかえる。一方で、どの部や同好会に入ろうかと地下鉄・バスに乗って千人くらいの「新人」女子学生がやってきては、勧誘の「先輩」男子学生が群がる。一人暮らしの多い東京では、あれが彼・彼女たちにとって、後にある社会学者に「婚活」と呼ばれる行動の第一歩だったのかもしれない。

そして「新人」男子学生はとなると、声掛けは大抵が体育会系や体育会系の同好会となる。学生数8万人を超える大規模大学とはいえ弱小団体は勧誘に必死なのだ。私も院生だったにもかかわらず、図書館を出て校内を歩いていると、イチかバチかなのだらう、合気道部から勧誘された。結局、私はあるバスケットボール同好会に入ったが、そこでできた友人とは今でも時々再会してはくだらない話で盛り上がる。子育てもひと段落した友人たちの現在の最大の関心事は私の結婚（というより、おそらく友人として出席するのが最後になるであろう結婚式）だ。

新入生の皆さん、入学おめでとう。この大学はなぜか部活動や同好会活動に参加する学生が多くありません。勉学に励むのはもちろんですが、それ以外に何か一つ打ち込めるものを、そして人生最高といえる友人を大学で見つけられることを祈っています。

悩み苦しき、喜び、充実の4年間に

情報文化学部



小林 満男 学部長

入学おめでとうございます。
鉄は熱いうちに打て、という格言があります。大学4年間で何をしたいのか、そのイメージを5月の連休までの間に書いてみることを提案します。皆さんが4年間、大学生活を有意義に過ごすためのヒントを3つ贈ります。

国際学部



澤口 晋一 学部長

早速ですが、皆さんは明日から次のことを実行してください。
①興味・関心のあることをできるだけ早いうちにみつめる。
②毎日日本を読み新聞に目を通す。

新入生に望むこと

ます。

一つは、大学に進学してまでなぜ学ぼうとするのか、何を学びたいのか、どのように学ぶのかをじっくりと自分の頭で考え、実践してほしいのです。大きく学ぶ＆大いに学ぶ“ところが大”学です。大学を卒業すると、企業等で働き、賃金をもらい納税する職業人となります。

今までの生徒として過ごした小中高12年間の学びをふまえて、おそらくは50年前後は続くであろう職業人生活に接続する

なぜ、何を、どう学ぶのか

ことになる本学での4年間をどう過ごすかは、これからの長い人生に大きな影響を与えるものと思います。

二つ目は、学ぶことを習慣にしてほしいのです。まずは毎朝、自身の回りのサービスやビジネスは日進月歩で変わりますが、学ぶ習慣を身に付ければ一生困ることはありません。大学で身に付けた学ぶ習慣はあなたの宝になるはずです。

定時に起床することがポイントです。予習・復習も習慣になれば授業も余裕をもって臨め、学ぶことが楽しくなります。AI（人工知能）やIoT（モノのインターネット）などを利用し

主体的に学ぶことが基本ですが、それだけでは十分ではありません。自分が理解したことを友人や教員、あるいは家庭や地域社会での議論やコミュニケーションを通して磨きをかけ、学

最後に、

学びは社会的行為であるということです。まずは自分が

と名付けた4年間にわたる大学生活の事業計画を立ててみませんか。計画は実行し、やり繰りしながら実現することが大切です。その成功（失敗？）体験はきっと一生の財産となるはずです。

す。

③好奇心とやる気を4年間持続させる。

世界では毎日、様々な所で、様々なことが、様々な理由やきっかけで起こっています。これらをすべて把握しようとしても不可能に近いでしょう。か

興味と好奇心、本と新聞で

という、まるで知らないというのでも困ります。どうすればいいの。世界中で起きていることをざっと観ていくと、何かしら、心

に引っ掛かるものが一つや二つは必ずあるはず。これがすべての出発点です。次にそれがいったいどういうことなのかを面倒くさげらずに少し時間をかけて調べてみるのです。ネット

間）的・空間的に多様な関連をもつて発生します。まともな本であれば、その関連を含めて多面的に解説・議論されます。従って、最初の一つの点（興味・知識）から始まっても、本（新聞）を読む

ことでその

点が増え、類書を読むことでさらに増え、ど

を使うことは否定しませんが、できれば本を使って調べてください（図書館で書棚の前に立ち、じっくり何冊もの本の背表紙（書名）を見て、目次に目を通して、文章を少し読んでみる）。一つのこと（問題）は、歴史（時

んどん理解が深まっていきました。同時に疑問も湧きます。そのなれば最初一つの点だったものが、多くの点を構成し相互に関連し合い網の目のようになります。問いの発見と解決はまさにこの過程で起こるものです。

これが正しく秩序立てられた状態を「体系的」といいます。出発点は小さくてもこういうことを4年間持続させることであなたの考える能力は大きく発達します。ただし、このような理解への到達は本や新聞だけでは難しいでしょう。大学の授業はもちろん、友人との語らい、さらには国内外問わず実際に現地に足を運ぶことを通じて成し遂げられていくものだと思います。こうして身に付けた能力は、やがて社会に出た際に強力な武器となります。どうぞ大いに悩み苦しき、喜び、泣き笑い、後悔しつつも充実していたと思える4年間を送ってください。

友好前進へ 相互理解を

李俊揆・駐日韓国大使が来学 講演

本学で開いた特別講演会で話す李俊揆大使



経済連携や文化交流

「民族主義に陥らない工夫を」

昨年7月に交代したばかりの駐日大韓民国大使館・李俊揆（イ・ジュンギ）特命全権大使が12月2日、本学を表敬訪問されました。

李大使は、星野理事長と平山学長を表敬訪問して和やかに懇談しました。その後、長年にわたって韓国の慶熙大学などと交歓を続けている韓国語履修コースの学生たちとの交流会で、

本学の韓国留学の歴史と内容などについて学生から説明を受け、「外国語はいろいろな国々の人々と交流し視野を広げるための第一歩。手段、ツールの一つです。そこで何をどのように伝えるのか、準備を重ねて、いかに差異化をしていくのがより重要です」などと話されました。

交流会の後、日韓友好を

（国際文化学科講師 佐藤 若菜）

テーマに「なぜ、今韓国なのか」と題して、日本に留学経験もある李大使が日本語で講演。日韓の経済的連携や歴史問題、観光ブームをはじめとした文化交流など多岐にわたって話され、今後の友好前進に向けて相互理解と、民族主義に陥らない工夫が大切です、と指摘されました。

今回の講演会は、学生だけでなく一般の方々にも公開し、約150人が李大使の話を熱心に聴講していました。



弥彦神社で参拝の前に、境内の手水舎で身を清める作法を体験する一行

海外4大学の教員・学生19人迎え

COC+国際交流事業

弥彦参詣や地域視察

昨年2月に続いて、COC+（文部科学省による「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」）の国際交流関連事業の一環として昨年11月下旬、ロシアの極東連邦大学、中国の北京师范大学、韓国の慶熙大学、アメリカのノースウエスト・ミズーリ州立大学から教員、学生合わせて19人が来県し、楽しく

交歓しました。

11月23日は本学の学生と一緒に燕市の産業史料館、弥彦神社や岩室の宝山酒造、寺泊魚の市場通り、佐潟などを視察。24日は平山学長に面会した後、本校（みずき野キャンパス）でロシア語・中国語・韓国語・英語の各クラスの授業で交流をしました。その後、国際交流インスト

ラクター主催の交流会でも親交を深めました。

26日は、ホテル日航新潟を会場に、一行と本学の学生がグル



本学の国際交流センターで交流歓談する学生たち

ープに分かれてワークショップを開催。「新潟」「発見」「交流」「NUIS」をキーワードにして、今回の視察で体験したことなどをテーマにグループごとに感じたこと考えたことをまとめて、個性あふれる発表を行いました。

在新潟のロシア、中国、韓国の各領事館から総領事を招いて歓迎会も開催し、訪れた各国の大学の教員・学生と領事館関係者との交流が深まり、有意義な時間を過ごしました。

（企画推進課 関川 歩）

「青少年のための科学の祭典 新潟県大会」

光通信の実験に歓声

LEDキューブ展示も注目

光受信機を作ってリモコンの光を聞いてみよう。情報システム学科・近藤研究室の学生7人が、「青少年のための科学の祭典 新潟県大会」(1月28、29日・長岡市のオーレ長岡で開催)で電気光回路の実験を出展しました。



学生の指導を受けて、小中学生が真剣に電気光回路の製作にチャレンジ

半田付けをせずに回路を組みブレッドボードで電気光回路を製作体験するブースを設置。多くの小中学生と親が参加して、ペアを組んで光受信機と光送信機を組み立てました。光受信機に向けてTV用リモコンのスイッチを押すと、目には見えない赤外光の通信により「ブツブツ」とスピーカーからデジタル音が聞こえてきました。

スマホから、好きな音楽を送信機でLED光に変え、その光を受信機のリモコンで、音楽が流れ出ると、音楽から「やったー」と歓声も上がり、光ファイバーを経由する実際の光通信の仕組みを実感していました。また、

農産物を活用するコンテスト

枝豆みそのスイーツ アイデア部門で入賞

藤田研究室・学生チーム



昨年8月に新潟市が主催した「農産物をつかったビジネスプランコンテスト」で、情報システム学科の藤田美幸研究室の学生チームがアイデア部門に入賞し、12月9日の発表会で贈賞式とプレゼンテーションが行われました。

これは新潟市南区産の農産物を活用し、食品の付加価値化と新たなビジネス創出を目指して、事業化が可能な6



贈賞式で賞状を手にする戸川和志さん(中央)、佐藤希さん(左)と平原龍也さん

同研究室の西村広憲さん(今春卒業)が製作したLEDキューブの展示も注目

を集めました。会場は2日間で1万7千人の来場者でにぎわいました。(情報システム学科教授 近藤進)

国際学部 安藤潤准教授

家計経済を分析、出版

国際学部の安藤潤准教授が「アイデンティティ経済学と共稼ぎ夫婦の家事労働行動―理論、実証、政策―」と題した本を紙写真集を出版しました。

安藤准教授が2005年から



取り組んでいくテーマである家計経済に関する研究の集大成。「日本の共稼ぎ夫婦では、なぜ妻に家事労働が偏るのか」という疑問に

究活動を行った成果も盛り込まれています。今年2月末、文芸堂から出版されました。

対して、アイデンティティ経済学という理論フレームワークを用いて分析を試みた学術研究書です。本学の教員海外研修制度を活用して2010年9月から1年間、海外で比較研究活動を行った成果も盛り込まれています。今年2月末、文芸堂から出版されました。

(情報システム学科 准教授 藤田美幸)

2017 高校生はじめてなだでもご参加できます!

オープンキャンパス

お問い合わせ先 入試・広報課 〒950-2292 新潟市西区みずき野3-1-1 TEL 025-264-3777(直) FAX 025-264-3780 E-mail nyushikouho@nuis.ac.jp

1 7/17 (月・祝)	2 7/30 (日)	3 9/3 (日)	4 12/10 (日)
10:20▶15:30	10:20▶15:00	10:20▶15:00	13:15▶16:30

無料 学食体験

1回目 7/17 (月・祝)
2回目 7/30 (日)

無料 送迎バス 運行

1回目 7/17 (月・祝)
2回目 7/30 (日)

同時開催

2回目 7/30 (日)
英検対策講座

予備校講師による
 3回目 9/3 (日) 小論文対策講座
 4回目 12/10 (日) 一般入試対策講座

①学部紹介 ②入試情報・傾向と対策 ③模擬講義 ④語学体験(英語・ロシア語・中国語・韓国語) ⑤コンピュータ実習 ⑥入試・海外留学・就職個別相談(キャリアカフェ) ⑦入試対策講座 ⑧実験体験コーナー ⑨キャンパスツアー ⑩保護者プログラム など

※時間やイベントについては、変更になる場合があります。最新情報は本学ホームページをご覧ください。

会場 新潟国際情報大学 本校
新潟市西区みずき野3-1-1 (JR越後赤塚駅下車 徒歩7分)

参加お申込み 本学ホームページまたは下記までお申込みください。

5カ国 留学・夏期セミナー

アメリカ

私たち23人は、昨年8月24日から12月17日まで、アメリカ合衆国ノースウェスト・ミズーリ州立大学で学びました。

大学では、英語を第2言語とするクラスに属して読み書き、英文法、英会話、アメリカの歴史と文化などについて授業を受け、様々な習慣なども教わりました。韓国や中国、サウジアラビア、メキシコなどの国々の学生も一緒に教室

でした。授業中のディスカッションはもちろん、休み時間など、彼らと一緒に過ごす中で、アメリカだけではなく他国の文化も学ぶことができました。異文化について知ることは、とても新鮮で楽しかったです。

もらい、学生寮内の生活ではできない様々な体験ができ、忘れられない思い出になりました。先生方、友達、家族の支えで、ずっと持ち続けていたアメリカ留学の

経験をこれからの人生に生かしたいと思います。

平考試）5級に合格したりと、学習の成果が実感できるようになりました。

夢かなえた！

刺激的な4カ月

国際文化学科3年

石橋 香音

と文化などについて授業を受け、様々な習慣なども教わりました。韓国や中国、サウジアラビア、メキシコなどの国々の学生も一緒に教室

大きな思い出は、ホストファミリーと過ごした時間です。週末やサンクスギビング休暇中にいろいろな場所に連れていって

夢をかなえることができました。全て新鮮で刺激的な4カ月間。この

留学生イベント「北京の夜」で「エイサー」を披露した日本人留学生たち



交流して成長 漢語検定も合格

国際文化学科3年 藤巻 直也

中国

大家好（みなさんこんにちは）。中国組の10人は約4カ月間、中国の北京師範大学で学んできました。私は今回の留学で成長できたことが2つあります。

一つは、やはり語学力の進歩です。北京に着いた当初は飲食店での注文すらままならず、授業中も先生の話を理解するのが精一杯でした。しかし、話の内容も少しずつ理解できるようになり、相手との会話も次第に苦にならなくなりました。気がつ

カナダ

くと、飲食店で料理の注文もスムーズにできるようになったり、念願のHSK検定（漢語水

カナダ夏期セミナー参加者は、昨年8月～9月の約5週間、カナダのアルバータ州州立大学で学びました。英語の研修は、習熟の程度によっていろいろな国の学生と一緒に20人ほどの小グループに分かれて3週間の研修プログラムを行うIDPクラスと、その後1週間、本学学生だけのITクラス（情報システム



メキシコ人留学生のお別れパーティーは大勢で盛り上がった

二つ目は人との交流です。私は他人と関わるのが得意ではなく、人間関係に悩んだ時期もありました。この留学を機に克服できたと思うのも、初めは周囲の空気に飲み込まれ、クラスメイトとうまく関わることもできませんでした。しかし、自分から話しかける回数を増やし、学内外のイベントや交流会にも参加して、他人と関わる不安が減り、新しい人間関係を少しずつ築くことができたような気がします。

この成長は、外国に飛び出してみたからこそできたのではないかなと思います。今回の留学経験を生かして、学生生活をより充実させていきたいです。

クラス）で学びました。

朝8時から正午までの英会話とプレゼンテーション中心のハイレベルな授業に、最初は苦戦しましたが、積極的にクラスメイトや教員とコミュニケーションを深めてゆくことで、徐々に英語力がつき、自信もついてきました。

また、現地の人々へのインタビュー課題が出されたときは、誰ひとり断らずに快く応じてくれて驚きました。多国籍文化の

異文化との出会い 新鮮!

あなたは家族…思わず涙

情報システム学科3年 佐藤 優季奈



ロッキー旅行中、カナダ太平洋鉄道を背景にピース

国だけに驚くほど親切で友好的な人が多い、とても良い環境で

した。企業訪問やロッキー旅行などカナダの大自然を体験する

プログラムの感動的で、本当に貴重な経験でした。一番の思い出は初めてのホームステイでした。会話の不得意な私が理解できるまでゆっくりと付き合ってくれ、一緒に食事や買い物をして、楽しく、感謝いっぱいの日々でした。最終日の別れ際、「ここはあなたの第二の家族よ」と言ってもらい、涙を流したことは忘れられません。

大学の充実した留学制度と、携わってくださった方々、そして無事帰国できたことに感謝し、ここで得たことを次のステップにつなげ、後輩たち世代に、留学はとても勉強できるチャンスだと発信していきたいと思えます。



日本語専修コースで学ぶロシア人とレストランで楽しくランチ

ロシア

Здравствуй те
(こんにちは)

ロシア極東のウラジオストク国立経済大学に4カ月間留学しました。ウラジオストクではロシア語研修はもちろん、人々の暮らしや文化など多くのことを学びました。

韓国

昨年9月3日から12月24日まで、韓国の慶熙大学校で約4カ月間学びました。本学で約1年間、韓国語を学び、さらに語学力を伸ばしたいと考えての留学でした。大学では韓国語の文法と読み書き、ヒアリングと韓国語の会話、そして韓国の伝統文化と歌やダンスも体験しました。韓国語の教室には日本人以外の他国の学生も多く、はじめは韓国語の会話どころかハング

ルを聞くのも大変でしたが、授業で韓国語を学ぶにつれて、韓国語の先生はもちろん、同じクラス他国の学生とも次第に韓国語で会話ができるようになり、とても楽しくなりました。その後、久々に韓国人の友達

歌やダンス体験 ハンゲル上達

国際文化学科3年 乙 美穂

に会ったとき、「韓国語がだんだんと話せるようになってきたね!」と褒められ、本当にうれしくなりました。韓国に行った



韓国語履修クラスの仲間と一緒に、もらった景品を手にして笑顔で集合

の語学力を向上させるよう努力して、ぜひまた、自分の会話力を試しに韓国へ出かけたいと思います。

ウラジオの街、歴史、料理楽しむ

国際文化学科3年 馬場 啓

留学前に、1年間ロシア語を勉強したのですが、留学当初は人の話すことや様々な場所にあるロシア語もわからず、大変苦労しました。しかし、次第にわかるようになり、帰国のころには多くの言葉が理解できるようになりました。

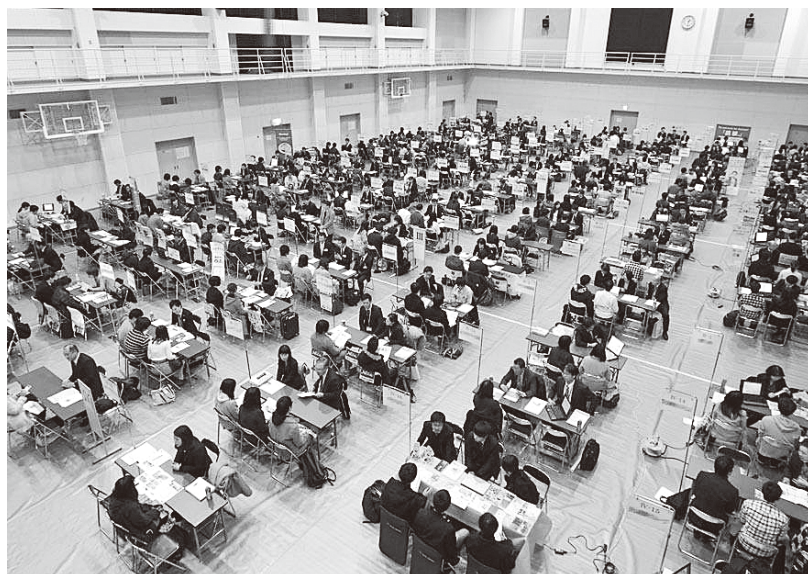
うまくいかないことも多くありますが、ロシアで過ごした多くの体験はとても有意義で、その経験をこれからのロシア語学習に生かしていきたいと考えています。

Спасибо! (ありがとう!)

新潟市の姉妹都市ウラジオストクは、成田空港から空路で約2時間、飛行機では日本と距離が意外に近い都市です。留学中、時間があれば現地で知り合った友人と一緒に、歴史豊かなウラジオストクの街中を散策しました。一緒に食事では、ブリヌイと呼ばれるクレープのような料理やシャシリクと呼ばれる焼肉料理など、おいしい伝統料理を食べる機会が多かった経験ができました。

「学生・企業交流会」

県内外214社、学生267人が参加



体育館をいっしょにして開催した「学生・企業交流会」

「どんな職種、仕事で自分を生かす…」

来春3月卒の学生の就職活動が3月1日解禁され、6月1日一斉の選考活動開始を目がけて、「就活」がスタートしました。学生と企業の接点を増やすため、本学は2月7日と8日の2日間、本校体育館で「学生・企業交流会」を開催し、県内外から昨年より多い214社の企業と団体の人事担当者が集まり、来春の就職を希望する学生267

10月内定目指し、就活スタート

に活動することが大切です。就活前に「どんな企業で働きたいか」「どんな仕事をしたいのか」を想像して目標を絞り込む必要があり、本学は、

人が就活前の足慣らし、準備に参加しました。10月内定までの「短期決戦」を勝ち抜くには、学生自らが真剣に就職を意識して積極的



企業の人事担当者が丁寧に説明する仕事内容を聞く学生たち

各学生に企業で働くイメージが湧くようにインターンシップなどを積極的にすすめてきました。参加した学生たちは、実際の仕事への理解や、社会人としての心構えなど、多くのことに気づいたことでしょう。

交流会では、参加企業と団体を4つのエリアに編成、学生も4グループに分けて、1回目の訪問から4回目までは指定した企業エリア内のブースを自由に訪問し、1エリアで2社を20分間ずつ訪問できるようにしました。また、5回目は自由訪問として、第一希望の企業を中心に交流できるようにしました。

各ブースでは、「業界の特徴や魅力」「職種と働きがい」「企業が求める人物像」など、それぞれ幅広い視点で質疑応答を行い、学生は情報を収集しまとめていました。企業の担当者からは「学生の皆さんが前向きで、就活に向

- Students: A Case Study of EFL Learning through Focus on A Self-Directed Learning* TESOL 2017 International Convention & English Language Expo (Washington State Convention Center)
- 藤田 美幸(情報システム学科・准教授)
- ・(2016年3月9日・10日)「デジタルとアナログの融合による地域活性化プラットフォームモデルの開発ー「ふるまろくエースト」を事例としてー」モバイル学会・シンポジウム「モバイル17」(大阪大学)
- アレクサンドル・ブラーソール(国際文化学科・教授)
- ・(2016年9月5日)「現代日本社会における戦国時代の名残」ウラジオストク日本センター(ロシア・ウラジオストク市)
 - ・(2016年9月12日)「現代日本文化」沿海州立中央図書館(ロシア・ウラジオストク市)
 - ・(2017年3月2日)「伝統文化と現代日本」沿海州立図書館(ロシア・ウラジオストク市)
 - ・(2017年3月10日)「伝統文化と現代日本」極東連邦大学(ロシア・ウラジオストク市)
 - ・(2017年3月13日)「日本社会史と現代社会」Persona Grata研究会(ロシア・ハバロフスク市)
 - ・(2017年3月14日)「日本教育制度」Persona Grata研究会(ロシア・ハバロフスク市)
- 矢口 裕子(国際文化学科・教授)
- ・(2016年9月5日)「現代日本社会における戦国時代の名残」ウラジオストク日本センター(ロシア・ウラジオストク市)
 - ・(2016年9月12日)「現代日本文化」沿海州立中央図書館(ロシア・ウラジオストク市)
 - ・(2017年3月2日)「伝統文化と現代日本」沿海州立図書館(ロシア・ウラジオストク市)
 - ・(2017年3月10日)「伝統文化と現代日本」極東連邦大学(ロシア・ウラジオストク市)
 - ・(2017年3月13日)「日本社会史と現代社会」Persona Grata研究会(ロシア・ハバロフスク市)
 - ・(2017年3月14日)「日本教育制度」Persona Grata研究会(ロシア・ハバロフスク市)

- ・(2017年3月5日)「『アナイス・ニンの日記』の編集方針をめぐって」アナイス・ニン研究会 第7回例会(桜美林大学)

3) 委員・社会的活動・記事・その他

- 安藤 潤(国際文化学科・准教授)
- ・(2017年2月13日)「そして、家事はメタボ化した」『AERA』21ページ 取材記事
 - ・(2017年2月28日)『夕刊フジ』4面「編集局から」著書紹介記事
- 矢口 裕子(国際文化学科・教授)
- ・(2016年4月より継続)日本ヘンリー・ミラー協会 理事
 - ・(2016年7月20日)エッセイ「エンマとアナイス」日本ヘンリー・ミラー協会研究誌『デルタ』
 - ・(2016年12月18日)書評「ヘンリー・ミラー・コレクション 16 対話・インタビュー集成」『産経新聞』
 - ・(2016年12月25日)翻訳(共訳)トリン・ミンハ『フレイマー、フレイムド』水声社
- 内田 亨(情報システム学科・教授)
- ・(2016年11月26日)6大学間ゼミ研究発表会にて内田研究室卒業研究生発表「ミスタードーナツの顧客獲得のための戦略ーセブンイレブンのドーナツに対抗するためにー」日本大学、高崎経済大学、専修大学、神奈川大学、桜美林大学、新潟国際情報大学(日本大学商学部)
 - ・(2016年12月3日)大鹿地域づくり研修会 内田研究室卒業研究生が「地区民と意見交換のファシリテーター及び発表(妙高市大鹿交流館)」

アーランドサカモト(株)	恒成(株)	(株)高助	パール金属(株)
アースサポート(株)	(株)国土	(株)たかだ	hakka(株)
青山商事(株)	コクヨ北陸新潟販売(株)	中越運送(株)	浜正機工(株)
阿賀野市役所	コナン販売(株)	中央保険サービス(株)	(株)ピーアンドエム
昱工業(株)	コネクシオ(株)	中国東方航空	(株)BSNアイネット
アクシアリテインググループ	(株)コマガタ	(株)ツバサ洋服店	東日本旅客鉄道(株)
(株)アクロホールディングス	(株)コマザワ精機	(株)津山商店	(株)ビット・エイ
(株)アサマ家具店	(株)コメリ	(株)ティーガイア	(株)ビップ
(株)アスカプランニング	(株)コロナ	東京コンピュータサービス(株)	(株)福田組
(株)イーエムエス新潟	コンピュータロン(株)	トップ工業(株)	福田道路(株)
(株)イシカワ	サイバーコム(株)	轟産業(株)	富士印刷(株)
(株)イタヤ	(有)佐藤建具製作所	トヨタカラー新潟(株)	富士ゼロックス新潟(株)
(株)インテックソリューションパワー	三条信用金庫	トヨタカラー北越(株)	(株)富士通新潟システムズ
(株)ウオロク	(株)サンソウシステムズ	(株)トラステック	藤屋段ボール(株)
(株)ウメザワドライ	サントリービバレッジサービス(株)	(株)島梅	北越(株)
(株)エイジェック	(株)三宝	トリオシステムプラズ(株)	(株)北越銀行
(株)HRインキュベータ	(株)シーエスレポーターズ	中日本信和(株)	北星産業(株)
(株)エイチ・アイ・エス	CKD(株)	新潟いすゞ自動車(株)	(株)ホテルオークラ新潟
(株)エクセルテック	(株)ジェイ・イー・ジェイ	新潟運輸(株)	(株)ホテル泉慶
越後さんとう農業協同組合	ジェイメディカル(株)	(医)新潟勤労者医療協会	(株)ホテルマネジメントジャパン
越後中央農業協同組合	(株)システムアート	新潟県警察本部	(株)ホンダオート新発田
株式会社ティティデータセキュリティシステムズ	システムリサーチ(株)	新潟県済生会三条病院	(株)マスターマインド
(株)NS・コンピュータサービス	シマト工業(株)	新潟県酒類販売(株)	丸三証券(株)
(株)NSGホールディングス	清水商事(株)	新潟県信用組合	(株)丸山自動車
(株)エヌ・ティ・エス	(株)ジャパンネット	(株)新潟県農協電算センター	(株)マンションセンター
エヌターアックアツインズ(株)	(株)JALスカイ	(株)新潟ケンペイ	ミサワホーム北越(株)
(株)エフティグループ	(株)シリウス	新潟サンリン(株)	(株)水倉組
遠藤商事(株)	シンコール(株)	新潟市消防局	源川医科器械(株)
(株)オーシャンシステム	新日本建設(株)	新潟酒販(株)	(有)向井園
大野精工(株)	(株)新明電気	新潟信用金庫	(株)メディセオ
岡三にいがた証券(株)	シンワ測定(株)	新潟精機(株)	(株)護国
(株)税小川会計	(株)スズキ自販新潟	新潟総合警備保障(株)	(株)安田屋
(株)オタケ	(株)スポット	新潟大栄信用組合	ヤンマーアグリジャパン(株)
柏崎市役所	セコム上信越(株)	新潟中央農業共済組合	(株)ゆうちょ銀行
片山商事(株)	(株)セブン・セブン	新潟トヨペット(株)	(株)ヨドバシカメラ
(株)川内自動車	全国共済農業協同組合連合会	にいがた南蒲農業協同組合	ライクスタッフィング(株)
(株)環境マシナリーサービス	(株)セントラルパートナーズ	新潟みらい農業協同組合	(株)リアルユニテッド
(株)キュービット	全日空商事デューティフリー(株)	(株)日伝	リコージャパン(株)
共和工業(株)	(株)総研システムズ	日本精機(株)	ルートイングループ
(株)クスリのアオキ	(株)総合システムプロダクツ	日本郵便(株)	(株)ワタナベ
クラッシュアンドカンパニーグループ	(株)第一印刷所	(株)日本システムコンサルタント	ワタナベグループ
株式会社エイトストラット・ホールディングス	(株)大光銀行	(株)野水機械製作所	
クリナップ(株)	(株)第四銀行	(株)ハードオフコーポレーション	
(株)グローバルネットコア	第四証券(株)	(株)ハート・デリバリー	
警視庁	ダイダ(株)	ハーバーハウス(株)	
(株)ゲイン	太平ビルサービス(株)	(株)ハーモニック	

平成29年3月現在(五十音順)

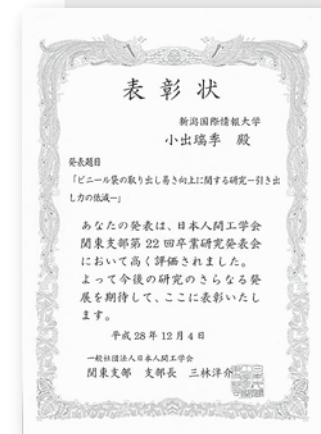
日本人間工学会関東支部の2016年度卒業研究発表会が昨年12月4日、高崎経済大学で開かれ、本学の西園研究室の情報システム学科の小出瑞季さん(今春卒業)が「ビニール袋の取り出し易さ向上に関する研究」を引き出し力の高減一」を発表して高い評価を受け、表彰状写真賞を授与されました。

日本人間工学会で表彰

西園研究室 小出 瑞季さん

レジのビニール小袋

取り出しやすさで研究



に袋詰めをする際や野菜コーナーなどに置いてあるロール状のビニール小袋が取り出しやすくなるように、と、工夫や試行錯誤を重ねて、その結果を学内の授業やゼミでも発表しましたが、人間工学会などの本格的な発表会やプレゼンテーションは初めてでした。表彰を受けた小出さんは「限られた時間内で、工夫改善の成果をわかりやすく伝えることは結構難しかったのですが、他の学生の発表も聞くことができて、大変よい勉強になりました」と感想を話していました。

教員の活動(本人申告による)

1) 研究論文・図書

安藤 潤(国際文化学科・准教授)

- ・(2017年)『アイデンティティ 経済学と共稼ぎ夫婦の家事労働行動－理論、実証、政策－』文真堂(135頁)
- ・(2017年) "Externality of Defense Expenditure in the United States: A New Analytical Technique to Overcome Multicollinearity", Defence and Peace Economics, Vol.28 DOI:10.1080/10242694.2017.1293775 (1-15)

區 建英(国際文化学科・教授)

- ・(2016年10月) 訳著 渡辺浩『东亚的王权与思想』上海古籍出版社(1-217)

佐藤 若菜(国際文化学科・講師)

- ・(2017年2月) "D'dejà lu", Sympathetic Relationships between Miao Mothers and Daughters as Mediated by Ethnic Costumes: Case Studies from Guizhou Province, China. https://www.wcaanet.org/dejalu/translations.shtml

白井 健二(情報システム学科・教授)

- ・(2017年) "Profit and Loss Analysis on a Production Business using Lead Time Function", International Journal of Innovative Computing, Information and Control, Vol.13 No.1 (183-200)
- ・(2017年) "An Optimal Production Capacity Control including Outside Suppliers", International Journal of Innovative Computing, Information and Control, Vol.13 No.1 (167-182)

瀬戸 裕之(国際文化学科・准教授)

- ・(2017年3月) コラム「博物館に入ったミグ21戦闘機－ラオスからみたドイモイ－」『アジアワールド・トレンド』日本貿易振興機構アジア経済研究所 No.257 (24-25頁)

吉澤 文寿(国際文化学科・教授)

- ・(2016年) 序論『五〇年目の日韓つなぎ直し 日韓請求権協定から考える』社会評論社(9-22頁)

2) 学会・研究会・講演等

越智 敏夫(国際文化学科・教授)

- ・(2017年1月23日) 「選挙における責任：市民と政治家のあいだ」選挙管理委員会関東甲信越静総会(越後湯沢・ホテル双葉大会議室)

小山田 紀子(国際文化学科・教授)

- ・(2016年11月24日) 論題「アルジェリアにおける植民地支配の構造と民族運動の展開」研究懇談会(津田塾大学国際関係研究所)

佐藤 泰子(国際文化学科・英語講師)

- ・(2017年3月4日) 「MOOCsを活用した学びの事例：学問領域を超えた動機付けとは」大学英語教育学会(JACET)リーディング・英語語彙・英語辞書研究会合同フォーラム(早稲田大学・早稲田キャンパス)
- ・(2017年3月21日～24日) "Poster Session: The Effectiveness of MOOCs to Japanese University

平成28年度

卒業式



新潟国際情報大学
学長 平山 征夫

学長式辞

本年は本学にとりまして20回目という記念すべき卒業式です。この記念の年に卒業される諸君にまずは心より「おめでとう」とお祝い申し上げます。
ご列席のご父母の皆様にもお祝い申し上げます。家庭から支えて来られ、本日を

迎えられたお慶びいかばかりかとご推察いたします。ご臨席いただきました来賓の方々にも御礼申し上げます。

卒業生諸君、みずき野

での大学生活はいかがでしたか。楽しかったこと、苦しかったこと、いろいろな場面が走馬灯のように脳裏を駆け巡っていることでしょうか。種々の困難を乗り越えて卒業の日を迎えられたことに大きな拍手を送ります。

みずき野の四季は巡り4年の歳月が経ちました。キャンパスライフは青春そのものだったでしょう。スポーツにこそしみ、友情を育み、先生方の指導のもと勉学に励んだ大学生活は、皆さんを大きく育んでくれたはずですし、自信を持って胸を張って社会に巣立っていかってください。

今春、みずき野から巣立ってゆく卒業生は、情報文化学科113名、情報システム学科173名、合計情報文化学部286名

正しいと信じる道

全力で生きること

です。皆さんは4月から社会人としてそれぞれ歩み始めます。実社会で多くの困難な課題にぶつかることでしょう。世界を取り巻く政治・経済情勢は、皆さんの多くがこれから所属する企業等にとって容易ではない時代です。トランプ米国大統領登場以来「不確実性の時代」とも言われ、何が起きるか予測困難です。でも、そうした時代を社会人として自立して生きてゆかなければなりません。しかも、「AI時代」を迎え、「2050年までに現在の職業の半分はAIに代わるだろう」と予想されます。生きてゆくには深い知識や洞察力、そして果敢な行動力が必要です。しかし、大学で学んだことはすぐ役に立たないでしょう。当分は大海に漕ぎ出した小舟のようにさ

まよい、戸惑い悩むでしょう。でも、大学で学んだことは必ず役に立ちます。それは、木を支える根のように皆さんに人生で必要な知恵を送り続けてくれるはずですし、戸惑うたびにみずき野で学んだことが「考え、判断し、実行し、解決する力」となって皆さんを支えてくれるでしょう。

しかし、大学で学んだことが木の根のように栄養分を吸い上げても、枝を張り、葉を茂らせるためには卒業後も学びを続けることが必要です。私は「新潟県生涯学習協会の会長を務めています。この協会ではインド独立の父・マハトマガンジーの「明日死ぬと思つて生きなさい」という言葉と大切にしながら活動しています。皆さんにも明

日からの言葉を忘れずに学んでいただきたいと思ひます。
皆さんは私より約50年後の時代を生きてゆきます。貧しかった私の青春時代よりはるかに恵まれた時代を生きています。でも豊かになれば幸福な人生が送れるかは別です。幸福感はかなり相対的だからですが、グローバル化が世界規模の経済競争を激化させ、所得格差は拡大し、ストレスの多い社会を生み、人々の不満・不安はむしろ増大しています。それらが英国のEU離脱、トランプ大統領の誕生など「ポピュリズム」の現象を生んだと言われます。「不確実時代」のゆえんです。視界不良の荒海に船出する皆さんには、強い精神を持つて立ち向かって欲しいとエールを送るばかりです。
世界経済、特に先進国経済は成長力の鈍化、経済のデフレ化という課題に悪戦苦闘中です。欧州と日本でマイナス金利という歴史上初の現象まで引き起こしています。戦後成長をけん引した資本主義が成熟し

「新たな成長を生み出す力」を失ったからだ。大きな技術革新も見当たらない」と指摘する経済学者もいます。中には「むしろ20世紀の成長が歴史上異例のこと。30世紀に振り返った時、どうしてあんなに成長したのかと言われるだろう」と予想する学者もいます。こうした考えからは、現状の低成長は限りなく金融問題で、異次元の金融緩和策等によりデフレマインドを克服し、低成長から脱却しようとする「リフレーション政策」、アベノミクスなどの先進国の超金融緩和策は的外れというところになります。どちらが正しいのでしょうか。皆さんは社会の在り方が歴史的に混沌とした時代に社会人となります。私は日銀で金融政策に携わった経験から、アベノミクスがデフレ政策に不向きなうえ政策限界があると考えています。前者の立場に近いですが、何よりも「人々を幸福にする社会システムかどうか」を重視してきました。「人々を幸福にする経済学とは何か」

をささやかながら研究してきました。皆さんも自らの幸福を追い求めるとともに、社会や他人の幸福にも問題意識を持った人間になってください。

人々の幸福に重要なもう一つの条件は「平和」です。すなわち戦争のない世界を生きたいということです。私は終戦1年前に生まれるこの夏73歳になりますが、ずっと「戦争のない日本」で生きて来られたことを何よりも幸福だと思っています。皆さんが私と同じ年齢になって同じことが言える日本であってほしいと強く願っています。残念ながら状況は近年悪化、緊張が高まっています。新自由主義やグローバル経済による所得格差の拡大、中間所得層の崩壊などが社会を不安定にしています。米国では「10%の資産家が富の50%近くを支配する」という1929年の「世界恐慌」前後と同様の状況になっています。皆さんには「平和」に敏感な人間でいてほしいと願っています。

皆さんは歴史の変動の荒海に乗り出しますが、ひるんではいられません。賢い思考力・判断力と大いなる勇気をもって挑戦しなければなりません。いつだって難しい課題に若者は立ち向かって時代を切り開いていきました。今度は皆さんの番です。
「良き社会人」たれと同時に「良き地域人」たれと申し上げます。本格的な人口減少時代を迎え、地方は現在呻吟しています。新潟県も同様です。本学の卒業生の多くは卒業後も県内で生きてゆきます。自分たちが住む地域を愛し、地域を良くしてゆくことに積極的に参加してください。「地域で生きる」ということに大きな価値と喜びを抱きながら人生を送って欲しいのです。明日からは、自分の足で立ち、前を向き未知なる道をかき分けて進んでゆくわけですが、全力を尽くした人生こそ納得できる人生です。一度しかない人生。納得のゆく人生を送ってください。私の好きな歌に「マイ・ウェイ」があります。全く別の内容のシャンソンのメロディにポール・アンカがフランク・シナトラのために詞をつけたものです。「間もなく人生を終わろうと

しているこの時、振り返ってみれば困難なこと、後悔すること、波乱の人生、すべての道を旅してきたが、今は何もかも楽しかったと思える。全てに全力で立ち向かってきたからだ。自分の信じたままに」と言う内容です。これから本格的に人生をスタートしようという皆さんに人生を終えようという時の詞はふさわしくないのですが、人生で一番大切なことは「自分の正しいと信じた道を全力で生きること」だと言いたくて引用しました。この通り生きた人がいます。ステイヴ・ジョブズです。



学校法人新潟平成学院
理事長 星野 元

理事長祝辞

新潟国際情報大学の第20回卒業式にあたり設置者であります学校法人新潟平成学院を代表してお祝いを申し上げます。286名の卒業生の皆さん、卒業、おめでとうございます。本日ご参列いただきましたご父兄の皆さまはじめ、日ごろ本学の事業活動や学生の就職などご支援ご協力をお願いしております企業、団体の皆さま方から多数ご臨席を賜り誠にありがとうございます。さて、今ほど学長から学位記を授与された皆さんは、何を考え思い浮かべていますでしょうか。「みずき野」での学園生活は、有意義な日々でしたでしょうか。多くの仲間や生涯にわたって肩を組み合わせる友人を得ることができたでしょうか。それぞれ数多くの思い出を刻んだことと思います。

マリさんが来られました。現在、古代ローマの博物学者「プリニウス」を執筆中ですが、同時にアメリカのアップル社創業者「ステイヴ・ジョブズ」の伝記の漫画化にも取り組んでおられます。「少し傾向が違いますが」と遠慮気味に聴いてみましたが、「あのアイザックソンの有名なジョブズの伝記の漫画化は出版社から持ち込まれた企画です。乗り気がしなかったのですが、ジョブズと言う人間を知ろううちに次第に面白くなり引き受けたのです。ぜひ読んでみてください」とのこと。それでジョブズを読んでみると、14歳でヨーロッパに一人で出かけ、17歳でイタリアに留学した彼

本日の卒業式をもって実社会に羽ばたく皆さんは、本学が開学してちょうど20回目の卒業生になります。振り返れば本学が真新しい校舎に340人の第1期生を迎えて入学式を行ったのは、23年前の平成6年春でした。そして4年後、平成10年3月20日、今日と同じ日の卒業式で第1期生たちは元氣よく実社会に飛び立っていきましました。

本学「十年史」によりますと、初の入学式での内山初代学長の式辞は、学生と教職員が一体となつて歴史を創つていこう、というものでした。内山学長は、「人類愛を貫く」という建学の精神を踏まえて、「この新潟の一角に人類全体のことを思う人間

日々新面目あるべし

が数千人いる。そしてやがてそうした人間が千人の単位で存在することになる」と述べ、歴史の起点に立つての決意を述べました。

本学の卒業生は5500人余りです。今年の皆さんが加わるとおよそ5800人になります。来年には6000人の大台を超える同窓生が社会に存在することになります。季節は巡り、遠くない将来には「千人単位」どころか「万人単位」が本学の同窓生として社会で活躍することになります。

女と共通するユニークな人生、常にやりたいうことにチャレンジしてきた人、自分の信じた道をおぼつかりながら歩んできた人であることが分かりました。それだけにユニークな言葉もたくさん残っています。その中で私は「持っているテクノロジーをすべて引き換えてもソクラテスとの午後のひと時を選ばね」というのが好きですが、皆さんの旅立ちに送る言葉になりませんので、ジョブズの言葉の中から次の言葉を送ります。「もし今日が人生の最後の日だとしたら今やろうとしていることは 本当に自分のやりたいことだろうか」。ガンジーとも共通していますね。夢に向かって諦めずチャ

想像するだけでも、私は本学に関わった一員としてうれしく、頼もしく思う次第です。さらに申し上げれば、本学卒業生の過去20年の就職状況を見ますと、県内就職率は平均で7割を超えています。従つて県内に限つて言えば、既に同窓生たちは様々な分野で新潟国際情報大卒として「一大勢力」を成し、活躍している訳です。

このうち第1期生や2期生など「ひとケタ世代」の同窓生たちを私も何人か知っていますが、彼らは大きく成長し県内外の企業などで責任あるポストに就いており、また、他のOBたちも若手のリーダー的な存在として活躍を続けております。同窓会では6月17日に20周年記念事業を計画しているそうです。

本日卒業する皆さんも、忘れてならないのは本学卒業という看板を背に歴史を創ってきた先輩たちが続いて歴史をつなぐ、という自覚です。先輩たちの仲間に入り、今度は皆さんが社会で実績を積み上げて後輩たちを迎え、輪に入れていくことが重要です。本学卒業という絆をますます強く、同窓の誇りをもって人生を切り開いてほしいと願っています。

最後に、贈る言葉として昨年の卒業生には「急がず、緩まず、焦らず、ぶれずに前へ進め」と申し上げましたが、今年は會津八一先生の「学規」を紹介して贈る言葉に

レンジしてください。卒業後も本学に思いを寄せてください。私は本学の中長期計画の目標の一つに「地域に必要な大学であり続ける」ことを挙げました。それは卒業生諸君にとつて、誇りの持てる母校であり続けることでもあります。どうか卒業後も同窓会活動などを通じて大学とつながっていただきたいと思います。

大学は新たな歴史を刻み伝統を育みながら皆さんと一緒に成長してゆきます。本日社会人として新たな人生に歩み出す皆さんの前途に「幸多かれ」と心からのエールを送つて私のお祝いの言葉といたします。

代えさせていただきます。先生は明治14年、新潟市に生まれ、昭和31年に亡くなられました。早稲田大学文学部教授などを務められた一方、書家、歌人として活躍され、多くの優れた作品を残されています。新潟市の名誉市民でもあります。

今日は私と新潟日報社の同人であります小田社長から激励に駆けつけていただいたお礼ですが、「新潟日報」の新聞の題字は會津先生の揮毫によるものです。「学規」は「学ぶ、の学（がく）」と規則の規」と書き、四カ条の指針です。會津先生が早稲田の講師時代、大正初期のことですが、新潟から上京した受験生3人を自宅に預り、この「学規」の書を壁に張つて指導されたということです。先生ご自身の信条、指針だったともいわれています。

四カ条の内容は「ふかく、この生を愛すべし」、「かへりみて己を知るべし」、「芸を以て性を養ふべし」、「日々新面目あるべし」というものです。時々、私はこの「学規」のことを思うのですが、特に最後の「日々新面目あるべし」の「一カ条が頭から離れない言葉です。」「一日一日を自分なりに精一杯生きて努力し、日々新たに気概をもって前へ進もう」と自分なりに解釈しています。

皆さんもあとで調べて、一カ条でもいいですから時々心の中で読み上げたらどうでしょうか。以上、祝辞といたします。

卒業生代表答辞



〈総代〉情報文化学科
堀 芳昭

学業、紅翔祭など

思い出いっぱい

新潟の冬の大雪や厳しい寒さも終わり、日が長くなり、暖かさも感じられるようになりました。春を迎える今、私たち286人の卒業生は巣立ち、新たな道を歩み始めようとしています。本日は私たち卒業生の

ために盛大なる卒業式を開催していただき、誠にありがとうございます。ご来賓の皆さま、関係者の皆さまにおかれましては、大変お忙しい中ご出席いただき、心より御礼申し上げます。

新潟国際情報大学に入学した4年前が昨日のこのように思い出され、時の流れの早さを実感しております。多くの方々に支えられ、私たちは充実した楽しい大学生活を送ることができました。

私は研究地域としてアメリカを選択し、文化、歴史、経済などを学びました。語学では実用英語技能検定やTOEICといった資格の取得を目指して努力してきました。特定分野に限らず異文化理解や近年の国際情勢などこれからの社会で役立つことをたくさん学ぶことができました。

卒業論文では学生一人一人が関心を抱いた社会的事項などについて研究しました。

私は、国際法を中心に法学を研究するゼミナールの一員となり、裁判員制度をテーマとして選択しました。一般市民の誰もが刑事裁判に参加する可能性があり、裁判制度はより身近になったと感じて関心を抱きました。制度の長所や短所を幅広く見つけることができました。この経験を通して、より広範な視野を持つことができたと思います。そして、いつも親切丁寧に指導してくださったゼミナールの先生をはじめとする諸先生方に心より感謝致します。

学業の他にも紅翔祭などかけがえのない思い出を作ることができました。世界ではグローバル化やテクノロジーや情報化が急速に進むという大きな変化が見られます。大学での学びは変化し続ける社会で生かせると思います。人生では楽しいことばかりではなく困難もあるかもしれませんが、これまでの経験を生かして未来へと進んでいきたい



JABEE認定プログラム

過去最高の33人 修了証書を授与

卒業式に先立ち、JABE E（日本技術者教育認定機構）で認定された情報システム技術プログラムの修了証書授与式が行われ、平

生的人数は過去最高となりました。本プログラムは情報システム学科の情報と関連分野の教育内容をJABEEが認定した教育制度で、修了生は「技術士補」の国家資格を得て、文部科学省が定める技術士第一次試験免除の優遇措置が受けられます。また、情報システムを開発する技術者になるために必要な教育を受けたことが社会的評価として与えられます。

本プログラムの修了生は、日本技術士会北陸本部の技術士から技術者としてのキャリア形成の仕方や、技術士を目指す際の支援体制等に関するガイダンスを受けています。また修了生・卒業生と技術士・教員の交流会が年2回（新潟と東京）開かれ、修了生の活躍ぶりを聞き、第二次試験受験に関する情報交換も行っています。修了証書を取得した卒業生は、これで164名となりました（情報システム学科 准教授 石川洋）

祝電

順不同

と思います。学ぶことの楽しさを教えてくださった先生方、職員の方々、いつも応援してくれた仲間、家族、地域の方々々に心より感謝したいと思います。これまで本当にありがとうございました。最後になりますが、後輩の皆さんの活躍、新潟国際情報大学の輝かしい発展をお祈り申し上げまして、答辞とさせていただきます。

日本私立大学協会 会長

大沼 淳一様

新潟県 知事

米山 隆一様

新潟市 市長

篠田 昭様

新潟商工会議所 会頭

福田 勝之様

阿賀野市 市長

田中 清善様

株式会社エクスセルシステム

渡辺 和市様

株式会社エクスセルテック

渡辺 和市様

株式会社NSGホールディングス

池田 祥護様

株式会社総研システムズ

清水 保様

株式会社津山商店

津山 由香様

代表取締役

阿部 隆様

新潟信用金庫

阿部 隆様

ALSO K

廣田 幹人様

新潟総合警備保障株式会社

廣田 幹人様

株式会社日本ドリコム

山城 由紀雄様

株式会社福田組

太田 豊彦様

代表取締役社長

清水 辰雄様

株式会社マリイ

清水 辰雄様

代表取締役

中島 淳二様

株式会社リクルート北関東マーケティング

中島 淳二様

代表取締役社長

中島 淳二様

代表取締役社長

中島 淳二様

代表取締役社長

中島 淳二様

代表取締役社長

中島 淳二様

2年次にロシアへ留学しました。当初は先生の話さ
え聞き取れず、周りの留
生のレベルに圧倒されて落
ち込む毎日でしたが、友人
と一緒に毎晩遅くまで勉強
して、徐々に理解できるよ
うになり、成長を少しずつ
感じられるようになり
ました。しかし、ほか
の留学生は、授業中
はもちろん普段の生活でも
常にロシア語を使い、その
積極的なコミュニケーション
意欲に刺激を受ける毎日
でした。

ロシアの異文化に刺激

情報文化学科 上條 直季

ロシアの冬は海面も凍る
寒さで、凍った海を歩いた
りロシアのお祭りやコンサ
にロシア留学した17人の友
人のおかげで大きく成長
し、楽しい留学生活を送る
ことができました。

3年次から、ゼミで国際
法を学び、多くの知識を身
につけることができ、興味
や関心も深まりました。ゼ
ミ以外でも飲み会などがあ
り、楽しい思い出になりま
した。卒業論文のテーマは
少年犯罪について研究しま
した。日本と外国の少年犯
罪の現状を明らかにし、今
後の課題を考察しました。

生の熱心な
ご指導のお
かげで自分
の納得のい
く論文を執
筆すること

大学生活、どの思い出に
も、所属したソフトバレ
ーボールサークルの面々が思
い浮かび、卒業した先輩方
にやまと追いつける安心感
のようなものや、先輩たち
への期待、卒業を迎える寂
しさなどが胸にこみ上げま
す。

が入部するように様々なイ
ベントを企画しました。新
入生が情報収集にSNSを
利用していることから、サ
ークル公式のツイッターの
アカウンで情報発信を行
いました。

年間、どんなことをする
た。結果として多くの仲間
を得ることができ、約50人
の大所帯サークルになりま
した。

優勝を目指したスポーツ
大会、炎天下のバーベキュ
ー、準備に時間をかけた紅
翔祭、たくさんの方々に
お世話になりました。

サークルの苦楽が宝物

情報システム学科 日高 菜摘

3年生の秋にサークル長を引き継いでからは、サークルについて考えて過
した。先輩の強力なリダー
シップについていくのが
楽しいときは違い、イベ
ントを考え、実行する大変
さに頭を悩ませることの多
い日々でした。

のか写真付きで詳しく紹介
し、認知度を高めることが
できました。個人の質問に
会う機会があり、「お疲れ
さま」と声をかけてもら
いました。振り返れば、楽
しい日々を過ごした。サ
ークルを任せてもらいあ
りがとうございました。

留学、アルバイト、運動に汗

卒業にあたって

学生生活で特に印象に残
っていることが三つありま
す。一つは、国際交流イン
ストラクター事業です。グ
ループでワークシヨップを
する際、意見がまとまらず
対立して、くじけそうにも
なりました。しかし、グル
ープ外の先輩やスタッフの
アドバイスにより、意見が
まとまり、対立を解消する
ことができました。

休み時間は、インストラ
クターの仲間たちと話をし
たり出かけたたりして、親
交を深めました。インスト
クターを辞めた後も、ミ
ーティングや学内活動に呼
び込まれ、3年次に區教授に
勧められて、第13回漢語橋
世界大学生中国語コンテス
トに参加しました。先生の
心なご指導のおかげで、コ
ンテストでは「優れた表現
賞」をいただき、孔子学院
の奨学金で1年間の中国留
学にも行くことができました。

人の話を聞き視野広く

情報システム学科 山浦 圭介

士で集まり、勉強会とい
う名目で授業を見せ合った
こともあり、また、アルバ
イトの悩みごとを相談し
合い、解決方法を見出す
こともできました。

三つ目は、就職活動で
は、自分の視野を広げてく
れ、ということを学びまし
た。社会に出てからも、人
の話をよく聞き、異なる
考え方やアドバイスを取
り入れ、より良い仕事に
つなげていきたいと思います。

国際交流で経験豊かに

情報文化学科 二平 太秀哉

不安でしたが、2週間くら
いから徐々に変化が現れ
、1カ月経つころには不
思議な人生の大きな選択
肢を与えてくださった區
教授、並びに中国で教
えてくださった先生方、
友人たちのおかげで、
自分から中国の企業で働
きます。留学する前は、
自分が中国語を使いなが
ら仕事をすることを思い
もしていませんでした。



荒海へ漕ぎ出そう

今年で第20回となる本学の平成28年度卒業式が3月20日、新潟市民芸術文化会館（りゅーとぴあ）コンサートホールで行われ、卒業生286人（情報文化学科113人、情報システム学科173人）が、夢と希望を胸に新社会へ羽ばたきました。

最初は学位記授与式。学部長から卒業生一人ひとりが名前を高らかに呼ばれて登壇し、平山征夫学長が「おめでとう」と握手で祝福。式辞で平山学長は「世界は政治、経済とも厳しい不確実性の時代。皆さんは大海に乗り出す小舟ですが、学問は必ず役立ちます。賢い思考と判断力、大きな勇気を持ち、良き社会人、地域人として学び続け、一度しかない人生、全力を尽くしてください」と激励しました。

た。

明し、「一日一日、新たな気持ちで努力してくださる」と祝辞。来賓の新潟日報社小田敏三社長が「あふれるネット情報に流されず、常に、WHYなぜ？と問うことが大切です」とエールを贈りました。



「よき地域人」に

学校法人新潟平成学院の星野元理事長は、會津八一の「学規」の「ふかくこの生を愛すべし。日々新面目あるべし」を説き、卒業生代表の情報文化学科・堀芳昭さんが「国際情勢に関心を持ち語学を磨き、充実の4年間でした。法律ゼミで裁判員制度をテーマにして広い視野を知りました。この経験を社会で生かしたい」と晴れやかに答辞を述べました。

最後は校歌「空がある風がある光がある」を、吹奏楽部の演奏で父母、教職員一緒に歌い上げ、広いホールに喜びを響かせました。



第20回までの卒業生は合計5,801人に

年 度	卒業者数	情報文化学科	情報システム学科
平成9年度(第1回)	295人	116人	179人
10年度(第2回)	290人	124人	166人
11年度(第3回)	303人	126人	177人
12年度(第4回)	294人	116人	178人
13年度(第5回)	291人	118人	173人
14年度(第6回)	277人	111人	166人
15年度(第7回)	314人	118人	196人
16年度(第8回)	294人	115人	179人
17年度(第9回)	299人	121人	178人
18年度(第10回)	278人	110人	168人
19年度(第11回)	312人	126人	186人
20年度(第12回)	285人	117人	168人
21年度(第13回)	267人	105人	162人
22年度(第14回)	310人	117人	193人
23年度(第15回)	272人	110人	162人
24年度(第16回)	294人	113人	181人
25年度(第17回)	291人	124人	167人
26年度(第18回)	278人	107人	171人
27年度(第19回)	269人	124人	145人
28年度(第20回)	288人	114人	174人
合 計	5,801人	2,332人	3,469人

※9月卒業生含む

平成28年度 卒業生特別表彰

学長賞（学業成績優秀者）

情報文化学科（総代）

情報システム学科

堀 芳昭
仙 晃史

学術賞

情報文化学科

金子修登

第14回新潟ロシア語スピーチコンテスト入門Aの部で優勝、翌年の同コンテストでは一般の部で3位に入賞するなど、優秀な成績を修めた。

情報システム学科

山科 棕

国立研究開発法人理化学研究所との共同開発に参加され、400時間を超える研究に取り組み、WEBツールを開発した。その成果は国際論文誌に掲載され、国際会議にて数時間に渡り発表するなど、本学の名声を高めた。

地域交流賞

情報システム学科

戸川 和志

農産物を使ったビジネスプランコンテストでの発表が評価され、準優勝したのち、地元イベントにてブースを出展する等、産学連携プロジェクトをPRした。

また、十日町笹山縄文遺跡を活用した地域活性化計画を提言し、地域振興会長や住民の方から評価され、新聞にも大きく取り上げられるなど、大学と地域の連携に多大な貢献をした。

課外活動賞

情報システム学科

海津 亮太

本学陸上競技部に所属し、県大会や北信越大会での優勝をはじめ、第69回国民体育大会や2015年日本学生陸上競技個人選手権大会等の主要な全国大会にも出場するなど、優秀な成績を修めた。